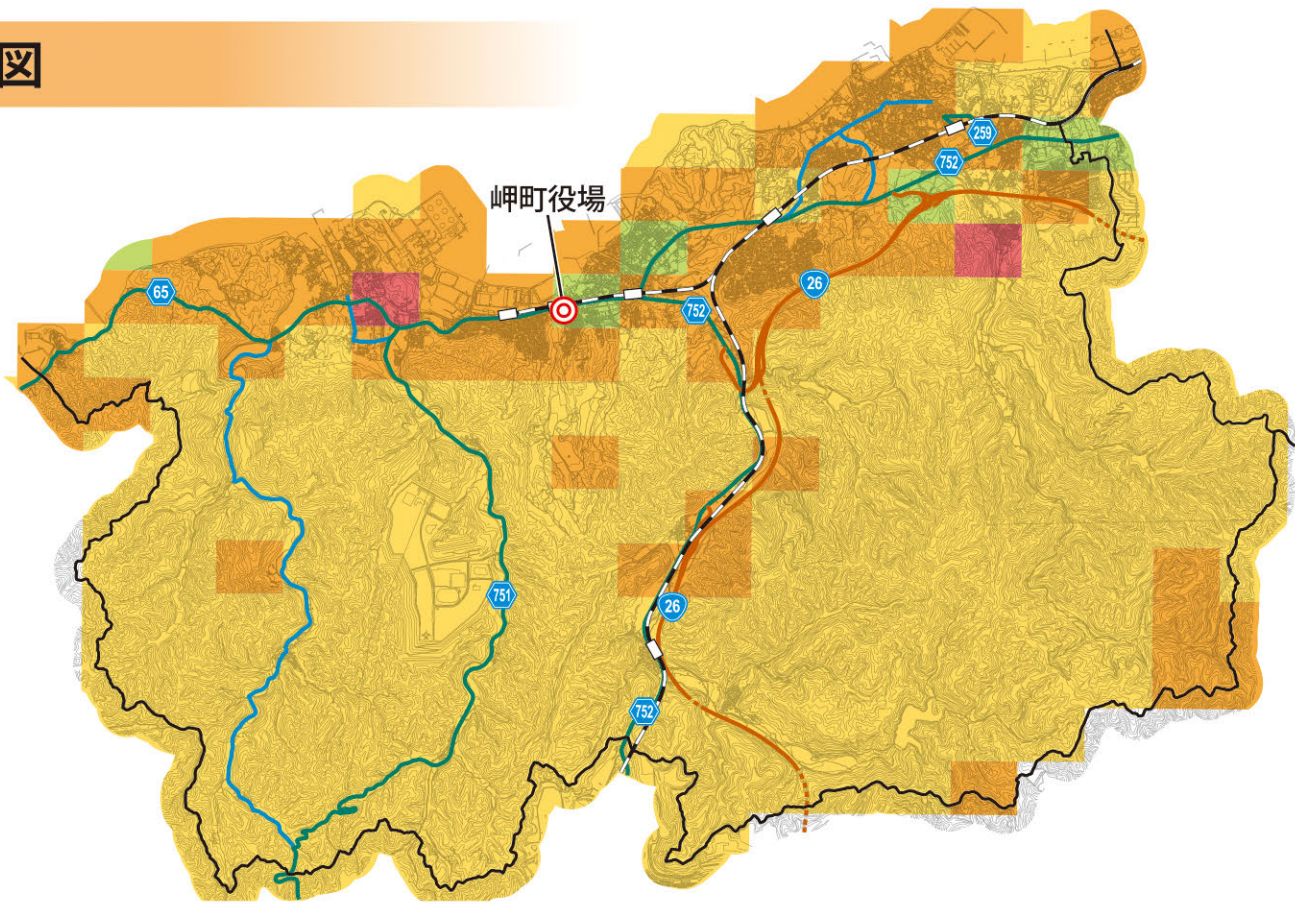


●震度分布図

震度

- 震度 7
- 震度 6強
- 震度 6弱
- 震度 5強

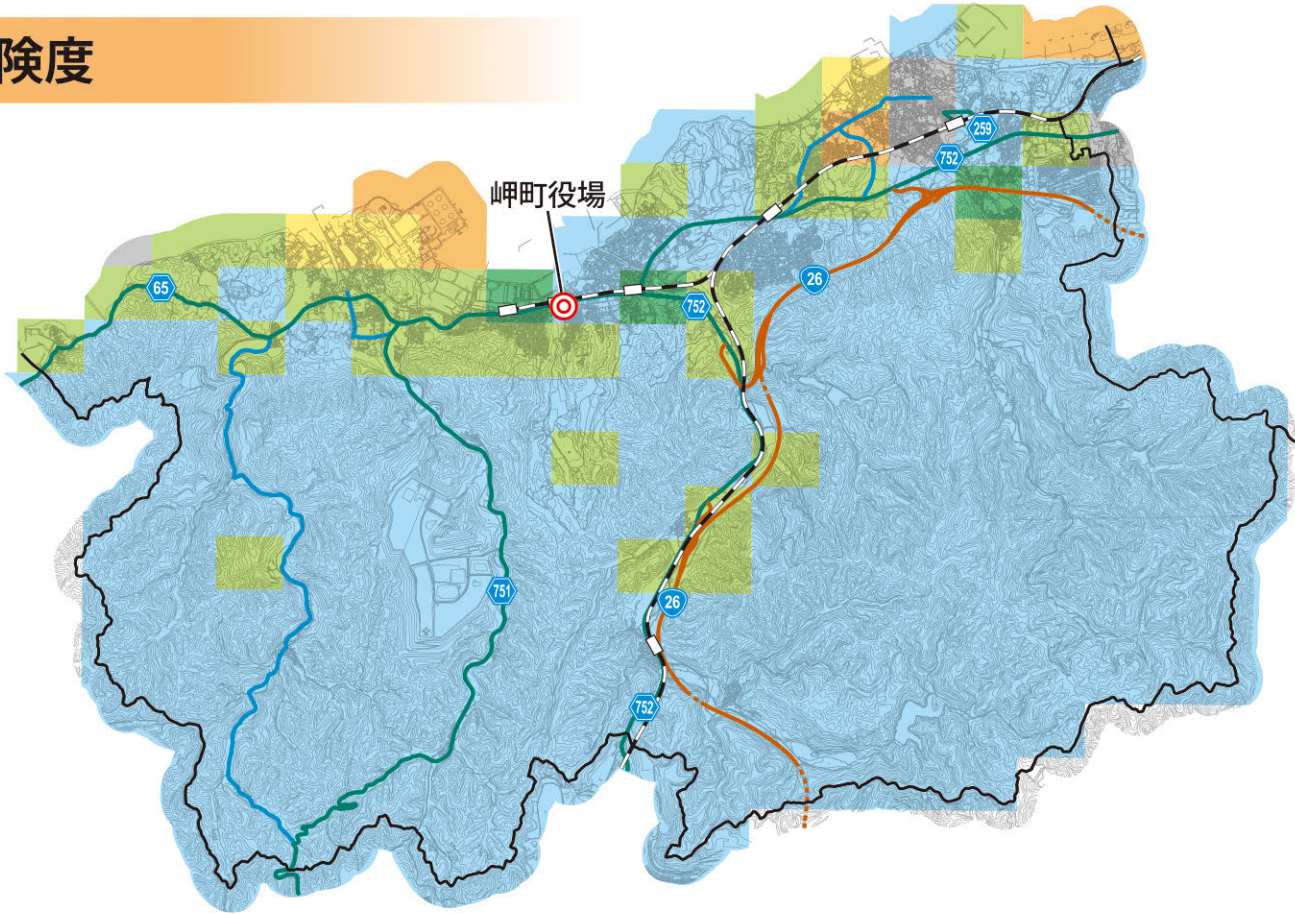


●液状化危険度

PL値(※)

- 20～25 激しい
- 15～20
- 10～15 中程度
- 5～10 程度は小さい
- 0～5 ほとんどなし
- なし

(※)PL値とは、液状化の危険度を表す値です。



震度と揺れの状況

震度 5強



多くの人が行動に支障を感じる。タンスなど重い家具でも倒れることがあり、建物の変形によってドアが開かなくなることがある。

震度 6弱



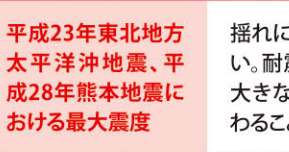
立っていることが困難。ガスの配管や水道管に障害が発生する。耐震性の低い建物は倒壊の危険がある。

震度 6強



立っていることができず、はわないと移動ができない。補強されていないブロック塀のほとんどが崩壊する。

震度 7

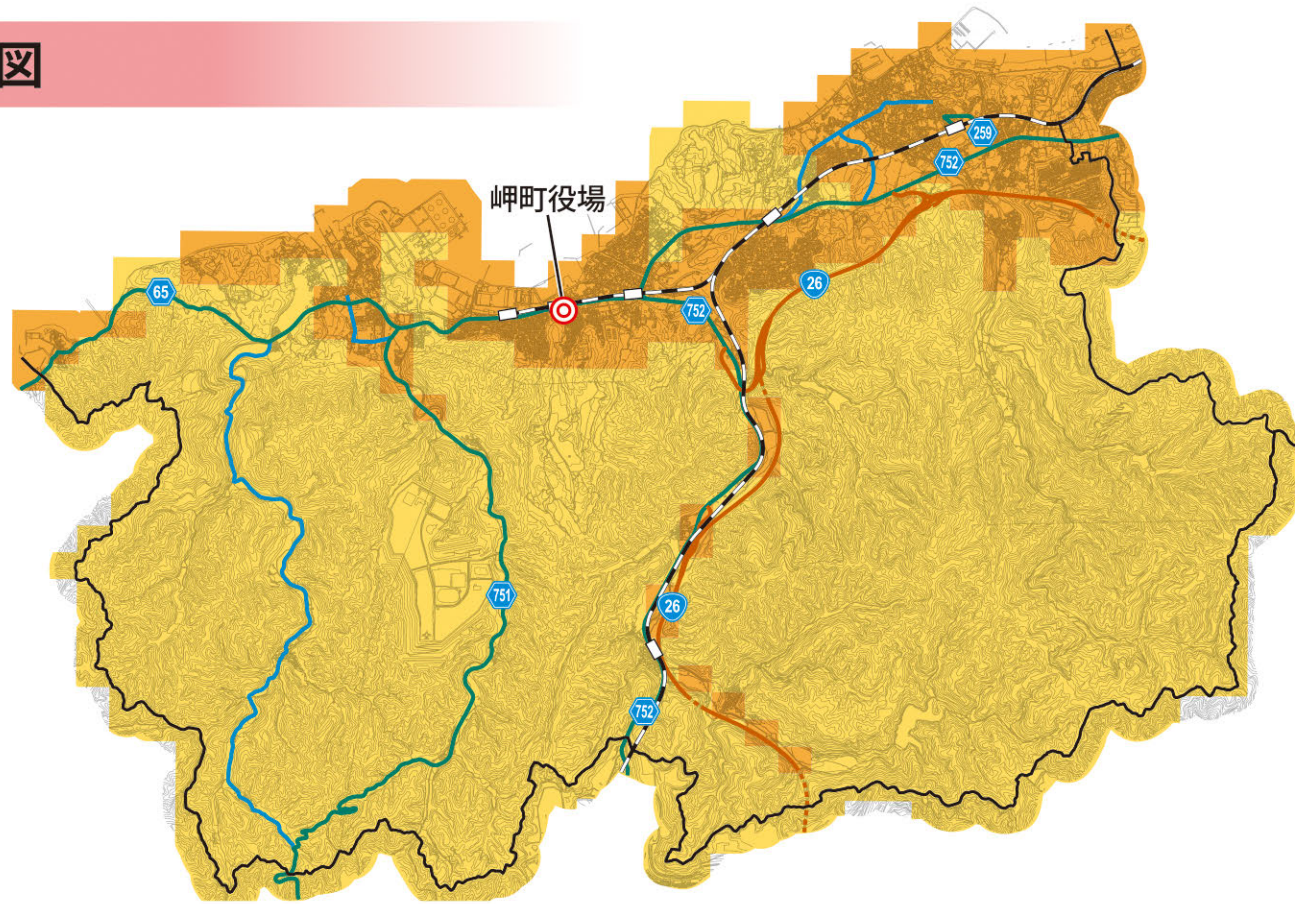


平成23年東北地方太平洋沖地震、平成28年熊本地震における最大震度

●震度分布図

震度

- 震度 6強
- 震度 6弱

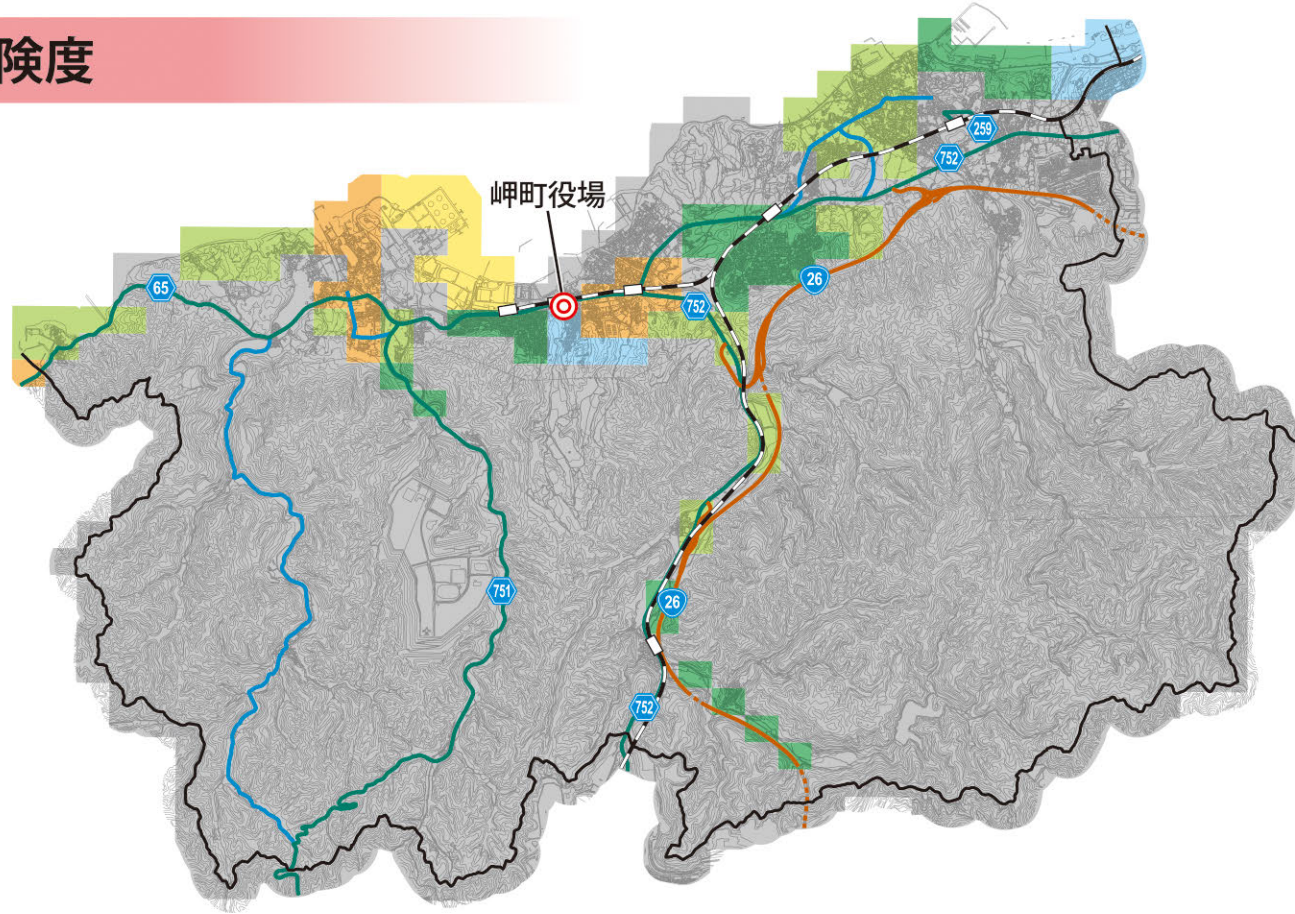


●液状化危険度

PL値(※)

- 20～25 激しい
- 15～20
- 10～15 中程度
- 5～10 程度は小さい
- 0～5 ほとんどなし
- なし

(※)PL値とは、液状化の危険度を表す値です。



液状化とは…

- 地下水が十分に満たされている砂地盤に地震動が作用すると、砂粒子が液体のように動き、地下水に浮かんだ状態になります。液状化した砂や地下水は、地盤の弱いところから地表に噴き出すことがあります。
- 液状化した地盤では、その上に建っている建築物や構造物が大きな被害を受けます。
- 地下埋設管などが大きな被害を受け、マンホールや管自体が地上に浮上してしまうことさえあります。

